

資料

東京医療保健大学医療保健学部看護学科入学前教育における学び方の学び ～授業体験会のレポート分析から～

Students' Learning How to Study of Pre-university Education in Division of Nursing, Faculty of Healthcare, Tokyo Healthcare University — Analysis of the Report of the Class Experience—

林世津子 島田祥子 富岡晶子 嶋澤奈津子
高野海哉 原田竜三 宮本千津子

Setsuko HAYASHI, Shoko SHIMADA, Akiko TOMIOKA, Natsuko SHIMAZAWA,
Kaiya TAKANO, Ryuzo HARADA, Chizuko MIYAMOTO

〈資料〉

東京医療保健大学医療保健学部看護学科入学前教育における学び方の学び ～授業体験会のレポート分析から～

Students' Learning How to Study of Pre-university Education in Division of Nursing, Faculty of Healthcare, Tokyo Healthcare University
—Analysis of the Report of the Class Experience—

林世津子 島田祥子 富岡晶子 嶋澤奈津子 高野海哉 原田竜三 宮本千津子

東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科

Setsuko HAYASHI, Shoko SHIMADA, Akiko TOMIOKA, Natsuko SHIMAZAWA, Kaiya TAKANO, Ryuzo HARADA, Chizuko MIYAMOTO

Division of Nursing, Faculty of Healthcare, Tokyo Healthcare University

要 旨：東京医療保健大学医療保健学部看護学科入学前教育プログラムの授業体験会における学び方の学びを明らかにする目的で、2013年12月の授業体験会で早期入学決定者が作成したレポートを、レポート作成者の許可を得て質的帰納的に分析した。その結果、早期入学決定者は、受講前のミニレクチャーにより【スライドの記載をノートする】【大事な所に色やラインで強調する】【話していたことをメモする】【矢印・図を活用する】【要約してメモする】【分からない言葉をチェックする】ことをし、ノートテイキングのスキルアップに取り組んでいた。この体験を通して抱いた疑問を教員や在学生に問い回答を得ることで、〈意識を高めて受講する必要性〉〈自ら学ぶ姿勢の必要性〉〈学ぶ内容の違い〉という【高校と大学の学び方の違い】や【入学までの過ごし方】について学んでいた。

キーワード：入学前教育、授業体験、学び方の学び

Keywords：Pre-university Education, Class Experience, Learning How to Study

I. はじめに

2010年度より東京医療保健大学医療保健学部看護学科では、AO入試や推薦入試により早期に入学が確定した高校生（早期入学決定者）に対して、12月から始まる全学部で実施の入学前教育とは別に、独自の入学前教育プログラムを提供している。そのプログラムの一つである授業体験会は、早期入学決定者が大学の授業や学び方をイメージし、入学までの数か月間の学習習慣継続を動機付ける目的で2011年度から開始した。その主な内容は、授業の受講体験と在学生との交流である。

この授業体験会は過去3回実施してきたが、この中で早期入学決定者がどのように大学での学び方を学んでいるのか明らかではない。そこで、早期入学決定者の授業体験会において大学における学び方の学びを明らかにする目的で、早期入学決定者が作成し授業の受講体験後に提出したレポートの記述を分析した。分析

結果をもとに、授業体験会における課題を考察したので、ここに報告する。

医療保健学部看護学科入学前教育プログラム及び授業体験会の概要

入学前教育プログラムは、通信課題、授業体験、在学生との交流、インターネット学習から構成される。そのうちの授業体験と在学生との交流を同日に、所要時間3時間半の授業体験会として12～1月の時期に実施している（表1）。授業体験は、在学生が受講してい

表1 授業体験会のプログラム構成

1) ノートテイキングのミニレクチャー	(20分)
2) 受講体験	(40分)
3) レポート作成①	(20分)
4) 在学生との交流：体験談とランチ交流会	(50分)
5) 質疑応答	(30分)
6) レポート作成②	(20分)
※加えて前後お知らせ・休憩時間として30分程度	

るクラスの後方に着席し受講体験するものであり、早期入学決定者は、受講前にノートテイキング・スキルのミニレクチャーを受け、受講体験後にレポートを作成する。受講科目は、人体の構造と機能を学ぶ専門基礎分野の科目である。

II. 方法

1. 対象

東京医療保健大学2014年度入学生で、かつ医療保健学部看護学科授業体験会に参加した早期入学決定者33名

2. 研究方法

1) データ収集

対象者が2013年12月23日の授業体験会で作成し提出したレポートのうち、2014年6月に対象者への説明と同意により許可があったものをデータとした。レポート内容は、①ノートをとる時に工夫したこと、②ノートをとる時に難しかったこと、③授業に関するところで先生に聞いてみたいこと、④授業や大学生活について先輩に聞いてみたいこと、⑤今日の講義で学んだこと、⑥今日の感想・意見の6項目である。加えて、入試形態の報告を求めた。

2) 分析方法

レポート内容は①～⑤に沿って質的帰納的に分析した。⑥は授業体験会の全体の感想であったため、分析対象から外した。記述内容のうち、大学での学び方に関する記載を抽出し意味ごとに1コードとし、共通するコードを集めカテゴリ化した。共同研究者間で繰り返し見直し誤りがないか確認した。

3) 倫理的配慮

実施に先立ち、研究者所属のヒトに関する研究倫理委員会の承認を得た。

対象者には、学習に影響のない時間を使って、文書

と口頭で研究の目的・方法、倫理的配慮等について説明した。特に研究への協力は個人の自由意思に基づくものであり、強制ではないこと、研究協力の有無が成績等の評価には影響しないこと、同意書の提出をもって研究参加への同意とすることを説明し、調査への協力を求めた。レポートから個人が特定できる語句を削除してデータとし、厳重に保管・管理し、研究目的以外には使用しないものとした。

III. 結果

1. 回収率と対象者の属性

33名中30名から同意が得られた(回収率89.2%)。内訳はAO入試入学者6名、指定校推薦入試入学者13名、公募制推薦入試入学者10名、入試形態不明者1名であった。データ分析において、入試形態別の特徴は認められなかった。

2. 早期入学者のノートテイキング・スキル

レポート作成①(表1)で記入された『ノートをとる時に工夫したこと』と『ノートをとる時に難しかったこと』は、早期入学決定者の授業体験時のノートテイキング・スキルを示す記述である。前者からは6つ、後者からは4つのカテゴリが抽出された(表2)。

3. 早期入学決定者の学び方に関する質問

レポート作成①(表1)で記入された『授業に関するところで先生に聞いてみたいこと』と『授業や大学生活について先輩に聞いてみたいこと』からは、学び方に関する質問を抽出した。前者からは4つ、後者からは6つのカテゴリが抽出された(表3)。

4. 早期入学者の学び方に関する学び

レポート作成②(表1)で記入された『今日の講義で学んだこと』からは、2つのカテゴリが抽出された。1つ目は【高校と大学の学び方の違い】であり、〈意識を高めて受講する必要性〉〈自ら学ぶ姿勢の必要性〉〈学

表2 「ノートをとる時に工夫したこと／ノートをとる時に難しかったこと」

	カテゴリ	コード
ノートをとる時に工夫したこと	スライドの記載をノートする	•スクリーンに書いてあることを書いた
	話していたことをメモする	•興味のあることや豆知識をメモした •大切に思ったことをメモした •話していることをメモした
	大事な所に色やラインで強調する	•色つきのところをチェックした •色ペンを使った •同じところをチェックした
	矢印・図を活用する	•絵を加えた •矢印・図を活用した
	要約してメモする	•要約してメモした
ノートをとる時に難しかったこと	分からない言葉をチェックする	•分からない言葉に気をとられ過ぎないようにした •分からない言葉に説明を加えた •分からない言葉にふりがなをふった
	聞き取ることが難しい	•聞き取ることが難しかった •話している箇所を見つけることが難しかった
	書きとめることが難しい	•見やすく書きとめることが難しかった •まとめて書きとめることが難しかった
	聞きながら書きとめることが難しい	•進むスピードが速く追いつかなかった •聞きながら書くことが難しかった
	書きとめる箇所が分からない	•重要な箇所の見極めが難しかった •書きとめる所が分からなかった

表 3 大学における学習に関して聞きたいこと：『授業に関する事で先生に聞いてみたいこと／授業や大学生活について先輩に聞いて見たいこと』の記述より

	カテゴリ	記入例
教員に聞きたいこと	授業中の話の聞き方	「どんなところを注意して聞いてほしいか」「説明のときに何に気を付けて聞くといいか」
	授業準備で学生に望むこと	「授業の前に予習はどの程度ほしいか」「授業の準備で何をしたいか」
	効果的な学習方法	「生物の用語を覚えるのがあまり得意ではないが、どうしたら覚えらるのか」
	授業形式	「授業の席は自由か、指定か」「ノートは今回のプリントのように毎回配られるのか」
先輩に聞きたいこと	入学前の勉強や過ごし方	「入学が決まってからの間、どうやって過ごしてたか」「入学前の勉強量」「入学前の勉強のこと」
	大学での授業の受け方	「授業中、何に気を付けて先生の話を聞いているか」「どうやってノートをとっているか」
	普段とテスト前の勉強方法	「苦手科目はどのように勉強しているか」「普段からどのくらい勉強（講義以外）しているか」
	授業の難しさや頻度	「授業は毎日大変か」「勉強の難易度」「週にどのくらい授業があるのか」
	授業のない時の過ごし方	「空き時間の利用の仕方はどのような感じか」「長期休みの過ごし方について」
	サークル・アルバイト等との両立	「サークルと勉強の両立はできるか」「バイトしている時間はありますか」

表 4 授業体験会における学習に関する学び：『今日の講義で学んだこと』の記述より

カテゴリ	サブカテゴリ	記入例
高校と大学の学び方の違い	意識を高めて受講する必要性	「授業もただ聞いているだけではなく大事なところを意識することが大切だと分かった」
	自ら学ぶ姿勢の必要性	「先生の話聞くだけでなく、率先して自分で調べて理解を深めないといけないと学べた」
	学ぶ内容の違い	「高校では踏み込まない奥までの授業を90分でやっていることが分かった」
入学までの過ごし方	生物の学習の必要性	「授業を受けて、高校で学んだ生物の知識がとても重要だということが分かった」
	入学までの期間にしておくこと	「大学に入学する前までに、きちんとできることはしておきたいと思った」

ぶ内容の違い)の3つのサブカテゴリから構成された。2つ目は【入学までの過ごし方】であり、〈生物の学習の必要性〉〈入学までの期間にしておくこと〉の2つのサブカテゴリから構成された(表4)。

IV. 考察

1. ノートテイキングのスキルアップ

看護学科入学前教育の授業体験会における受講体験は、ノートテイキングの体験でもあった。高校の授業は、黒板への板書が中心となり、教師が書き写す時間を作ることが多い。しかし、大学においては学ぶ必要のある専門知識が多く、講師が板書をするのはほぼないだろう。そのため授業体験会の受講前に、早期入学決定者が多数のスライドで展開される授業の現実に圧倒されないよう、ノートの取り方のミニレクチャーを行ってきた。『ノートをとる時に工夫したこと』からは、配布資料をよく読み講義中【スライドの記載をノートする】ことだけでなく、講師が話す内容を良く聴き、自分自身の興味や重要性を考え、【話していたことをメモする】【大事な所に色やラインで強調する】ことをしていた。さらに、【矢印・図を活用する】【要約してメモする】ことで分かりやすさを追求していた。また、専門用語が並んでも臆することなく、読み方を確認した後で調べられるようにするなど、【分からない言葉をチェックする】ことをしていた。レクチャーしたノートテイキングのポイントを活かしており、ノートテイキングのスキルアップにつながったと考える。

しかし、講師の説明内容を【聞き取ることが難しい】【書きとめることが難しい】【聞きながら書きとめることが難しい】と感じ、重要な箇所の見極めが難しく【書きとめる箇所が分からない】ことにも気づいていた。

集中すること、何が重要で何がそうでないのか判断すること、知識を獲得し文脈を理解することが、大学でのノートテイキングには不可欠となる。ノートテイキングの難しさに気づくことは、入学後の学習への適応をスムーズにするための貴重な学びの機会になると考える。

2. 受講体験がもたらす学び

ノートテイキングを伴う受講体験だからこそ、教員に対して【授業中の話の聞き方】【授業準備で学生に望むこと】などの質問、先輩である在学生に対して【入学前の勉強や過ごし方】【大学での授業の受け方】【授業以外での勉強方法】などの質問が生まれたと推測される。これらの質問には教員や在学生が回答しており、早期入学決定者の大学での学び方の理解につながれたと考える。

それは、高校では経験したことのない授業時間を集中し続けるには〈意識を高めて受講する必要性〉があり、授業だけでは知識の獲得にはならないと〈自ら学ぶ姿勢の必要性〉の実感として表現され、さらに、受講を通して〈学ぶ内容の違い〉に触れ、【高校と大学の学び方の違い】の確信となっていた。受講体験後の在学生との交流や質疑応答での情報も加わり、期待される【入学までの過ごし方】を理解したと考えられる。

3. 今後の課題

授業体験会における受講体験はノートテイキングのスキルアップとなり、大学での学び方の理解を引き出したと考える。今回対象となった早期入学決定者は、短時間に多くの専門知識を受け取り、知識を整理し理解しなければならないという現実に向き合うことになった。それによって、4月から大学で学ぶという覚

悟を持つ機会となり、入学までの数か月間に出来ることをしようという動機づけの機会になったと考えられる。

しかし、大学で学ぶための技術やスキルはノートテイキングのスキルだけではない。論理構成やリサーチ、資料整理などの学習スキルも重要である。レポート⑥の記述から大学入学への期待と不安が推測され、早期入学決定者においては、入学準備としてこれらの学習スキルがどの程度身につけているのか、学習成果を左右すると言われる学習特性（学習における計画性や遂行性などの行動特性）¹⁾に気づくことも、入学準備として役立つと思われる。

また、早期入学決定者が体験した授業は、従来の知識伝達・注入型であり、2014年の中央教育審議会の答

申²⁾により活発化するアクティブ・ラーニングが取り入れられているとは言えない。大学での学び方の一側面にすぎないことを伝え、他の入学前教育プログラムと共に、早期入学決定者が大学での学び方を効果的に学ぶ機会を創ることが必要である。

引用文献

- 1) 広沢俊宗：学習技術、および学習特性に関する尺度化の研究（I）—大学生用簡易版尺度の作成—。教育総合研究叢書2009；2，71-82.
- 2) 中央教育審議会：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）。2012.